

竹内明雄氏の事績と略歴

たけ うち あき お
竹 内 明 雄 氏

昭和8年 上平に生まれる

事 績

小型建機の研究開発一筋に56年余、「未だ世の中にないものを」そして「困っている人を助けるものを」という強い信念のもと、幾多の困難を克服、旺盛な研究心と卓越した独創力をもって、世界初のミニショベル、クローラーローダーなどを生み出し、大型しかなかった建設機械市場に、小型建機という新しい分野を確立するとともに、その製品は世界的に信頼性と知名度、シェアを誇ります。

また、技術者魂と経営センス、そして尽きることのないアイデアとバイタリティにより、裸一貫で創業した企業を、東証一部上場の企業までに育て上げられました。

平成元年（1989年）のベルリンの壁崩壊の取り壊し作業においては、竹内ブランドのミニショベルが活躍し、狭く不安定な足場で縦横無尽に活躍する姿は優れた安定性と操作性を実証したほか、過酷な使用条件を考慮された高品質の製品は、作業能力はもとより、乗る人の安全や快適さにも最善を尽くすことで「建機のベンツ」とも称されます。

また、まちづくりや工業振興にも積極的に関わり、平成2年から4年間、坂城町労務管理協議会会長を、平成4年から現在まで、公益財団法人さかきテクノセンター副理事長、顧問を、平成10年から5年間、坂城町商工会長を、平成14年から現在まで、坂城国際産業研究推進協議会会長を務められるなど、類まれなリーダーシップにより、坂城町の産業の活性化と発展に尽力されています。

さらに、平成27年には、自身が私財を抛出し、「TAKEUCHI育英奨学会」を設立し、長野県出身の理工系の学生及び長野県内の理工系の学生に対する奨学補助並びに北信越地方の大学等に研究助成を行い、人材育成、学術研究の振興と発展にも寄与するなど、我が国産業の発展に貢献した事績は極めて顕著であります。

略 歴

事業歴

昭和38年	8月	29歳で独立し、(株)竹内製作所設立 代表取締役社長に就任
昭和46年	9月	小型建設機械「ミニショベル」を世界で初めて開発、生産開始
昭和54年	2月	(株)米国竹内設立 取締役会長就任
昭和61年	9月	不整地作業向け建設機械「クローラーローダー」を世界で初めて開発、生産開始
平成8年	10月	(株)英国竹内設立 取締役社長に就任
平成12年	6月	(株)仏国竹内設立 取締役社長に就任
平成14年	12月	株式を日本証券業協会（JASDAQ）に登録
平成17年	4月	竹内工程機械（青島）有限公司設立 董事長に就任
平成27年	3月	株式を東証一部に市場変更
令和元年	5月	代表取締役会長に就任

商工業関係の主な職歴

昭和58年	5月	坂城町商工会工業部会 会長（3年間）
昭和61年	5月	坂城町商工会 副会長（9年間）
平成10年	5月	坂城町商工会 会長（5年間）
平成2年	5月	坂城町労務管理協議会 会長（4年間）
平成4年	3月	テクノハート坂城協同組合 副理事長（8年間） 理事（至現在）
平成4年	9月	財団法人さかきテクノセンター 副理事長（16年間）
平成20年	4月	財団法人さかきテクノセンター 顧問（4年間）
平成24年	4月	公益財団法人さかきテクノセンター 顧問（至現在）
平成14年	2月	(株)まちづくり坂城 代表取締役社長（2年8ヶ月間）
平成14年	4月	坂城国際産業研究推進協議会 会長（至現在）
平成14年	6月	坂城町鉄の展示館 運営委員（至現在）

栄 誉

平成7年	10月	坂城町功績表彰
平成15年	11月	坂城町功労表彰
平成18年	7月	信毎賞
平成19年	4月	紺綬褒章